

令和3年度 熊本外語専門学校 自己評価・学校関係者評価結果

委員構成

選任区分	所属等
高等学校関係者	元公立高等学校校長
企業関係者	関連企業の元役員
企業関係者	関連企業の元社員
卒業生	卒業生
保護者	卒業生保護者

第1回委員会：日 時 令和3年6月18日（金）13時開催

場 所 熊本外語専門学校 603 教室

出席者 評価委員5名 学校側3名

- 1 校長挨拶及び令和3年度入学時からこれまでの経過状況報告
- 2 校舎及び授業見学（コロナ対策下の授業）
- 3 資料説明
- 4 質疑応答、感想、提言
- 5 評価返送のお願い
- 6 閉会



第2回委員会：新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和4年3月11日に予定していた会議を中止し、資料を郵送し、それを基づいて評価依頼

学校評価の進め方

【学校関係者評価の実施方法】

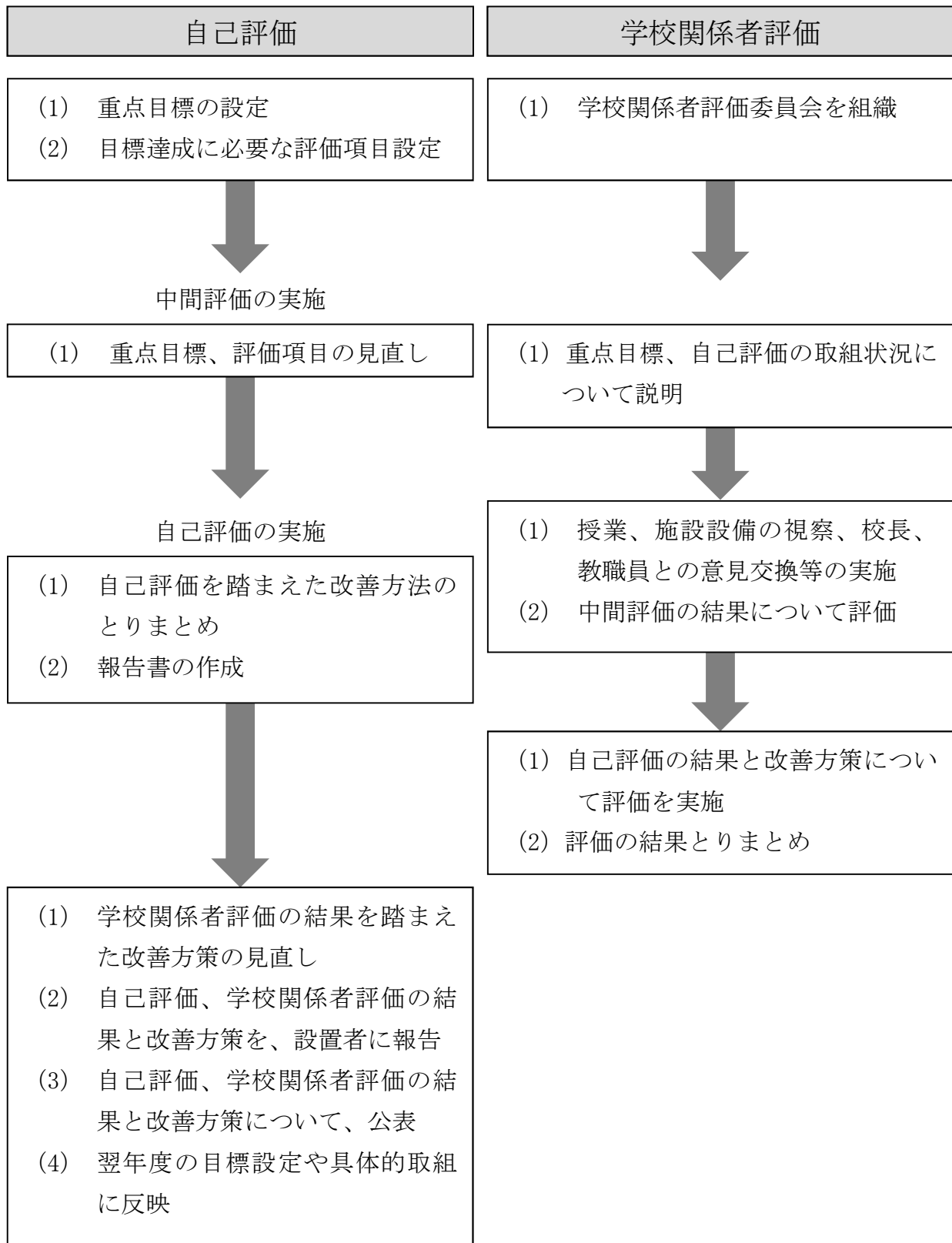
学校関係者評価の実施方法

①学校関係者委員会

学校と直接関係のある学校外の者を評価者とする学校関係者委員会を組織する。そのメンバーは、①卒業生、②保護者、③高等学校校長OB、④企業関係者、⑤企業関係者（もしくは財務専門家）の5名とする。尚、企業関係者の選定にあたっては、本校生の就職先で主に語学力を活かした職場を抱えている企業を選定する。

②学校関係者委員に、特に関わりのある重点目標、計画や自己評価、今後の取組方針などを説明し、学校見学や対話を通して教育活動、学校運営等に係る課題や今後の方向性等に助言をいただく。学校関係者委員会は、該当年度の学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか、自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか、学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか、学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうかなどを評価する。

③評価委員会は6月、3月の年2回実施する。



1. 学校の教育目標

本校は、学校教育法に基づき学問の探求と技術の修得に情熱をもつ青少年に対し、外国語および日本語の教育を通して、常に時代の流れに対応し、国際化社会で活躍できる、有能にして礼節ある人材を養成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点目標

①語学力の向上を資格取得や就職進学に結び付けることをめざす。

1年次から英検、中検、韓検、TOEICなどの語学資格試験に挑戦させ、語学への積極姿勢を養う。※能力別編成などの取り組み。

②出席率の向上と退学者の減少をめざす。

出席が学力向上及び生活習慣の形成につながるとの考えのもと、出席も単位取得の条件として生徒の出席を促す。また、毎年見られる退学者をいかに減らすことができるか有効な対策を考える。

③キャリア教育共済協同組合の「学生・生徒24時間共済」制度への加入

全学生を対象として学校内外で24時間体制で学生の事故や病気等に対して経済的負担の軽減をはかることができる。

令和3年度項目別自己評価及び、学校関係者評価は以下のような結果になりました。
 この自己評価及び、学校関係者評価に基づき、全ての項目において更に高い評価を得られるよう、一層努力して参ります。

3. 学校評価（学校自己評価・学校関係者評価）

評価の基準（適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1）

(1) 教育理念・目標	学校自己評価	学校関係者評価
評価項目		
①学校の理念・目的等が生徒、関係業界、保護者等に周知されているか	2	2
②各科の教育目標は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	3
[課題] ①については、生徒への周知は十分為されていると考えるが、関係業界、保護者等への周知は不足していたことは否めない。 ※引き続き関係業界、進学先との連携を充実し、訪問等により最新の情報を得る。ニーズを把握する、語学力プラス業界に関連性の高い資格を取得する。		
[今後の改善方策] ①については、生徒は勿論のこと、関係業界、保護者等への周知徹底をはかりたい。その為にはそれらの人々との接触・連絡を密にすることが必要だと考える。		
②については、ニーズの把握に努め、必要なスキル（語学+α）修得を生徒に促すことが必要である。		

(2) 学校運営	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①学校運営は、目的に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	3	3
②情報システム等による業務の効率化が図られているか	3	3
<p>[課題]</p> <p>②については、未だ十分に効率化が達成されておらず、見直すべき点が多い。</p> <p>※IT化等、業務の効率化についてはまだ改善余地がある。職員の意見を採り入れながら引き続き検討していく。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>②については、具体的にどのような点の効率化が遅れているか全職員で検討することで、問題点を明らかにし、その上でどのように効率化が進められるか確認する。また個人情報に関するデータを多く扱うため、データ管理の意識を更に高める必要がある。</p>		
<p>毎月保護者に発送（郵送）している出席状況、行事日程など連絡事項をメールで送る方式に2021年度より変更済み。その他ITを利用した業務の効率化はできるものから進めていきたい。</p>		

(3) 教育活動	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	3	3
②関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ等）が体系的に位置づけられているか	2	2
③成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	3
④人材育成教育を実践できる要件を備えた教員を確保しているか	3	3
⑤教員の能力開発のための研修等が行われているか	2	2
<p>[課題]</p> <p>②についてはインターンシップ、職業体験が生徒自身の選択に任されているので、個人差が著しく生じている。⑤については学校のスタッフに十分な余裕がないために、一部しか行われていない。</p> <p>※インターンシップについて、現在学生自身の選択に任されており、学校側から積極的な推奨はしていない。参加を決めかねている学生にとっては、経験者の体験談を直接聞く機会やメリット・デメリット等の情報提供があれば、より参加しやすくなる。申し込みから研修終了までの流れが明確に示されることも参加への後押しになる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>③については、既に実施している。②については、個人差が余り出すぎないように、バランスを考えて体験させることをめざす。⑤については、今後できるだけ能力開発の為の研修等への参加ができるよう努力していく。</p>		
<p>②について現在はコロナ禍の制約があるが学校側からも積極的に推奨していくことに努める。</p>		
<p>[改善済]</p> <p>GPAを2019年度より採用している。</p> <p>⑤について、日本語科、国際科ではベテラン教員による教授指導が経験の浅い教員に対して行われている。</p>		

(4) 生徒指導	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①生徒の基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	3	3
②生徒の安全管理のための取組等が行われているか	3	3
③進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか	3	3
④生徒・保護者からの相談体制が整備されているか	3	3
<p>[課題]</p> <p>①については、遅刻、欠席が目立つ生徒には各担任を中心に指導をしているが、高校時代から課題を抱えている学生が多く顕著な改善は見られなかった。②については防災訓練を行ったが、一部緊張感の欠けた生徒がいた。④については、主に各担任に生徒・保護者からの相談に対応してもらっているが、対応に苦慮する事案もあった。</p> <p>※①の自己評価が2から3に上がっている。しかし課題には昨年と同じ記載になっている。上昇した理由を記載すべきでは。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、家庭との連携を強化し、指導を行う。2021年から、ホームルームを週1回実施中。①の自己評価が2から3に上がった理由は、スタッフの取り組みによって退学率が改善してきているからである。②については、訓練により緊張感を持たせるように指導を徹底する。④については、担任だけではなく複数のスタッフでより良い対応ができるよう努める。</p>		

(5) 特別活動	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①クラブ活動等特別活動を奨励・支援しているか	1	1
②ボランティア活動を奨励・支援しているか	1	1
<p>[課題]</p> <p>①については、施設設備、時間的制約の観点から実施できていない。②については、奨励はしても支援できるところまでは至っていない。</p> <p>※語学を生かしたボランティアを中心に、引き続き学生への情報提供等、きっかけ作りをする。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、環境を整えば実施すべきだと考えているが、今のところ目途が立っていない。②については何らかの形で支援ができるよう努めたい。</p>		
<p>語学ボランティア活動ができる状況になれば積極的に参加を促していきたい。具体的には国際スポーツ大会、外国人対象の観光ガイド、国際ウォークラリー、国際会議など。</p>		

(6) 学修成果	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目	評価	評価
①進学率や就職率の向上は図られているか	3	3
②資格取得率の向上が図られているか	3	3
③退学率の低減が図られているか	3	3
④卒業生への追跡調査を実施し、学校の教育活動の改善に活用されているか	2	2
<p>[課題]</p> <p>①の進学については、希望する学生の大多数は進学できているが国公立など難易度の高い大学へのハードルは高い。②については、できるだけ積極的に資格試験に挑戦するよう指導しているが、期待通りの結果につながらないケースも見られる。③については、できるだけ生徒とのコンタクトに努め、早目に退学の因となるものを除くようにしているが退学に至ってしまう場合も毎年一定数ある。④については、一部の卒業生を除き追跡調査はできていない。</p> <p>※卒業生への追跡調査は、進学・就職先の実態を把握でき、離職率や離職理由等、学生が進路を決めるうえで大きな判断材料になる。まずは卒業生へのアンケート実施等から取り組む。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、できるだけ生徒が志望する大学等に進めるよう学力伸長に向けて努めたい。個人指導の強化が必要。②については、1年次から資格の有用性を認識させやる気を出させてより積極的に資格試験に挑戦するよう指導したい。③については、出席との相関関係が強く見られることから、出席に問題が生じたらできるだけ早く面談等を通して原因の把握に努めたい。④については、2020年度中に実施済み。</p>		

(7) 生徒支援	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目	評価	評価
①生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか	3	3
②生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	3	3
③保護者と適切に連携しているか	3	3
④学力的に遅れている生徒に支援はしているか	2	3
<p>[課題]</p> <p>②については、年に1回一部学校負担でX線撮影を行っている。薬物乱用防止教育、H I V感染防止教育などは実施していない。③保護者との連携は何か問題を抱えている生徒の場合特に重要であり担任を中心に取り組んでいるが、十分な連携が取れない場合がある。④については、必要に応じて個別指導も行っている。</p> <p>※特待生や資格奨学金の制度は生徒のモチベーションを上げるためにも良い制度なので継続する。また、新しい修学支援制度についても積極的に生徒や保護者に伝える。感染症対策などに関しては現在一般的にもとても注目されている分野なので併せてH I Vや薬物に関する情報の提供や教育の機会を作ることによって以前までとは伝わり方が違う。</p> <p>※今後の状況によっては、特に留学生への情報提供、必要に応じてメンタルケア等も求められてくる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については国や地方自治体の支援制度をできるだけ活用していきたい。</p> <p>②について感染防止の観点から教職員も生徒も全員X線撮影を行うことを義務づける。また薬物乱用防止教育等もできるだけ実施できるよう努める。③については、保護者と連携なしでは問題の解決は難しいのでできるだけ密にコンタクトする機会を設けたい。④についてはできるだけ能力に応じた個別指導の機会を増やしたい。①については必要な学生は奨学金も含め公的な支援を最大限に受けられるよう配慮する。2020年度から高等教育の修学支援新制度活用中。</p> <p>コロナ禍に関連して、特に留学生への情報提供、メンタルケアは積極的に行っていく。</p>		
<p>[特記事項]</p> <p>英検2級取得者、TOEIC550点以上取得者、特待生入学者の授業料免除(1年次のみ10~40万円)。入学後資格取得者への奨学金(1万~10万円)</p>		

(8) 教育環境	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2	2
<p>[課題]</p> <p>①については、エレベーターや空調機器等施設・設備の一部に更新を必要とするものがある。②については、姉妹校（州立モンタナ大学・北京語言大学）との交流が十分できていない。</p> <p>※本校には、姉妹校（州立モンタナ大学、北京語言大学）があるのに、全くではないが交流ができていない。もっと海外研修などを取り入れる。</p> <p>※コロナ対策として、オンライン授業を早期に実施した。今後も教育環境のオンライン化やICT機器の活用の必要性は高まってくる。インターンシップ、海外研修について、今年度は実施が難しい面があるが、改善案にあるように、オンラインによる授業や交流が実現すれば、学びの幅も広がるのでぜひ検討する。</p> <p>※基本的な設備などの他に、オンラインによる授業やその他活動を強化することも今後さらに必要になってくる。またWi-Fiに関しては、セキュリティや費用の関係上簡単には導入できないが、一部エリアから、等というように実験的に取り組んでみる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、できるだけ早急に取り組みたい。②については、インターンシップ、海外研修等を積極的に促し、姉妹校との交流も活発化していきたい。またオンラインによる授業や交流の可能性についても検討してみたい。</p>		
<p>現況下では留学生、研修生を送り出すことは難しいが、環境（特にコロナ）が改善してくれば積極的に取り組みたい。オンライン化の充実は今後とも強化していく。Wi-Fiに関しては、2020年度からポケットWi-Fi 3台活用中。</p>		

(9) 生徒募集	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目	評価	評価
①生徒募集は適正に行われているか	3	3
②生徒募集活動において、資格取得・就職情報等の情報は正確に伝えられているか	3	3
<p>[課題]</p> <p>①の生徒募集については、できるだけ効率的に、県内を中心に、高校等訪問や説明会、進学情報誌、TVCM、タウン誌、オープンキャンパス、インターネット等を通じて行っている。また留学生の募集については、主に留学生派遣のエージェントを介して行っているが、現状は新型コロナの影響もあり、かなり厳しくなっている。</p> <p>※留学生数については、技能実習生制度の影響が出ているが、学校での学びを卒業後にどう生かせるのか、どのようなキャリアを積めるのか、実習生との違い、そのメリットを示し、魅力をアピールしていくことが求められる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>オープンキャンパスに参加してもらった高校生等にいかに弊校の魅力、特性をアピールできるか最善策を求めていく必要がある。</p> <p>留学生募集については、新型コロナの影響を大きく受けているが、直接募集等エージェントを介さない方法にもチャレンジすることが必要である。</p>		
<p>ベトナムについては、技能実習生一辺倒となり、留学生の確保は望み薄となっているので、ネパールに力を入れる。専門課程を出ればあるいは大学に進学すれば日本で就職活動することも可能となるので、その点をアピールしていく必要がある。</p>		

(10) 財務	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか	2	2
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	3
③財務について会計監査は適切に行われているか	4	4
④財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
<p>[課題]</p> <p>①については収支バランスにおいて支出が収入を上まわっている状態が続いている。中長期的には、収支のバランスを取るために早急の対策が必要である。③、④についてはインターネットでの公開が既になされている。</p> <p>※生徒数の増加に注力することが経営の安定には不可欠である。留学生に関してはコロナが落ち着かない事には動きが少ないので、各国間の入国がスムーズになったときに備え準備の必要があるか。またそれと同時にオンラインなどを活用した生徒の募集や設備を整えることでの外部からの施設利用も期待したい。教室の時間貸しなどについてはもっと積極的にPRする。折角の好立地を生かさない手はない。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、学生増を中心に収入の増大をはかることが必要だが、収入確保の為のその他の方法も取り入れることを検討する。</p>		
<p>具体的には好立地を利用して貸部屋による収入増を考えている。現状では稼働率はコロナの為に低下しているが。</p>		

(11) 法令遵守	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①法令・専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	4	4
②個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3	3
<p>[課題]</p> <p>①については、各スタッフの良識と判断に任されているが、できるだけ誤断をおかさないようお互いにチェックし合うことも必要である。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>②については、これまでに個人情報流出による問題は発生していないが、データ管理等も含め個人情報の管理を更に徹底したい。その一つとして、生徒の個人情報を持ち出すことは厳禁という意識を全職員に徹底したい。</p>		

(12) 社会・地域貢献	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3	3
②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	2
③地域に対する公開講座・教育訓練の委託等を積極的に実施しているか	2	2
<p>[課題]</p> <p>①については、部屋のレンタルを通じて貢献できると考える。③については公開講座は実施しているが教育訓練の受託は行っていない。</p> <p>※コンテストの実施による認知度向上はできないか。</p> <p>※部屋のレンタルを通じて貢献できる。多いに活用したい。</p> <p>※地域貢献の観点からいえば、ターゲットを若者以外に絞った公開講座の実施、例えばリタイア後の高齢者を対象にした英会話講座等を検討してもいいのではないか。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、部屋のレンタルを積極的に進めたい。②については、支援まで行えるよう努めたい。③の教育訓練も可能な限り受け入れていく方向で検討したい。公開講座は受講者を増やすべく更に努力が必要である。</p>		
<p>たとえばボキャブラリーコンテストなど弊校の特色を活かしたコンテストなど検討していきたい。</p>		

(13) 国際交流	学校自己	学校関係者
評価項目	評価	評価
①留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	2	3
<p>[課題]</p> <p>留学生の受け入れは行っているが、言語や文化の違いによる様々な問題が発生している。海外姉妹校への派遣がこのところ進んでいない。</p> <p>※まずは校内での学生同士の交流促進にぜひ取り組む。交流が活発化すれば、語学学校としてひとつの魅力にもなるのではないか。</p> <p>※海外からの留学生の日本でのインターンシップは行われているか。卒業生の日本での就職への道が開かれると、留学生も増えるのでは。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>留学生を受け入れることは、文化・言語・考え方などの違いによって相当ストレスとなるものであるが、その難しさを超えないことには真の国際交流も国際理解も進まないだろう。要はお互いが違いを認めあった上でいかに協調、共生できるかの道を探すことが必要となる。現在アメリカモンタナ州の州立モンタナ大学及び中国の北京語言大学と姉妹提携をしているが、積極的に留学生派遣も進めていきたい。ただコロナ禍の現況では、実現の見通しは立たない。またオンラインを活用した交流の可能性を検討していきたい。</p>		
<p>海外からの留学生のインターンシップは行う方向で考えているが、コロナ禍の現況下では容易ではない。</p>		

I 重点目標について

1. 重点目標①について
・英検 2 級の合格率低下について対策が必要では？ ・とても良い取り組みだと思いました。
2. 重点目標②について
オンライン授業もある中、2 年生の出席率がやや低下しているが退学者は少なくなる努力が見られる。
3. 重点目標③について

II 各評価項目について

1. 教育理念、目的、人材育成像
・語学は進学、就職の目標達成の為の手段で有り、特に就職希望者には（語学＋α）の α を認識させ学校としてもバックアップすることが大切だと思います。
2. 学校運営
・依然 I T 関連は日進月歩で変貌しています。業務遂行及び生徒、父兄へのコミュニケーション手段は費用対効果を見据え、今後さらに検討を重ねて行くことが肝要だと思います。 ・コロナ禍の中、大変だと思います。
3. 教育活動
・インターンシップ参加企業はここ数年顔ぶれが変わってないようです。生徒の積極性も大切ですが、学校から企業への働き掛けがもっと必要と感じます。
4. 生徒指導等
・語学を必要とするサービス系、交通系の求人減少が就職率低下につながっているのではないかと。求人先の拡大努力が求められると思います。
5. 特別活動
・語学を活かした観光ボランティアにしても、日本のこと熊本のことをもっと勉強する機会を作る必要があると思います。先日拝見した和室で華道、茶道を学んでいらっしゃるようですが茶道はお点前だけでなく、日本の文化の中で果たしてきた茶道の歴史も併せ学ばれることを提案いたします。 ・②について SDGs の観点から学校が打ち出すことで改善していかないか。世界的な目標でもある SDGs を推進することで外国語を教える学校のブランディングにもつながるかもしれない。
6. 学修成果

・資格取得向上、特に英検は傾向性があり、過去5年間の過去問を繰り返し繰り返し解くことが重要で、生徒へ丁寧に指導するしかないと思います。TOEIC に関しても同じで、過去問を繰り返し解いたり、外国の映画を観たり、本や雑誌に触れたりすることも大事かと思われます。

・進路希望を叶えている生徒も多数いるように思われる。

7. 生徒支援

・とてもアットホームな感じを受けた。

・生徒の出席を促し、退学者を出さないような工夫への取り組みが感じられる。

8. 教育環境

・机やイス等、少し古いものも含まれているように思った。

・歴史ある学校なのですが、外観からももっと親しみやすいような、信号待ちなどでも目を引くような掲示板などがあってもいいのかなと思う。

・コロナ禍の中、社会環境の変遷は激しくなっています。コロナ収束後、特にオンラインシステムを使用した活動形態はますます進んで行くと考えられます。時代への対応は急務です。

9. 生徒募集

・さらに工夫していく必要があると思いますが、具体的なものはわかりません。

・語学への興味を持っている生徒へのモチベーションアップのためのイベントの主催などはいかがでしょうか。例えば、中学生、高校生参加のスピーチコンテスト。テレビ局と共催して、応募者を募ることにより、学校名の知名度を高めます。また、日本語教育を充実させてはいかがでしょうか？そのためには二つのコースが必要だと考えます。一つは外国人に日本語を教えるコースの充実。

もう一つは日本人生徒に日本語教師になるための育成コースです。

・アフターコロナを見据えての展開しかないと思います。

10. 財務

11. 法令遵守

12. 社会・地域貢献

・国際交流会館での留学生相手のボランティアを奨励します。国際交流会館では、外国人留学生がしょっちゅう行き来しており、何か困っていることがあったり、寂しかったりするような人もいると思われます。こちらから積極的に話しかけることで何らかのコミュニケーションが発生し、お互いに助け合ったり楽しんだりできると思います。

13. 国際交流

・コロナ禍、外国の方と接する機会がずいぶん減ってきているように思われます。上記の国際交流会館での出会いや、熊本城など観光地での出会い、その他の出会いを大切にしたり、また、オンラインでのコミュニケーションを積極活用した交流などで、実際の外国人とコミュニケーションを深めることが肝要かと思えます。

・SDGsの観点から学校が打ち出すことで改善していかないか。世界的な目標でもあるSDGsを推進することで外国語を教える学校のブランディングにもつながるかもしれない。

・留学生の日本でのインターンシップの件は、とても良い方向性だと思います。ぜひ実施して頂きたいと思います。又、インターンシップと共に日本の生活、文化など体験してもらえよう、数週間などのホームステイなどはいかがでしょう。受け入れて下さるご家庭を募集して、国際交流の場をもっと増えたら良いなと思います。学校から推薦された生徒さんだと、受け入れられるご家庭も色々な意味で安心されるのではないのでしょうか。

・コロナ禍の為、なかなか留学生と交流する場がない為、他の大学の生徒も気軽に来校して熊本の中の1つの「国際交流の場」のような形はどうかと考えてみました。